

## 石狩翔陽高校のキャリア教育

北海道石狩翔陽高等学校  
校長 川崎 義明

### 1 学校概要

#### (1) はじめに

本校は昭和53年4月に全日制普通科の道立高校として創立された。その後、平成13年4月に学科を普通科から総合学科へと転換し、また校名を「北海道石狩高等学校」から「北海道石狩翔陽高等学校」に変更した。道内で5番目の総合学科高校として新たにスタートし、平成16年3月には「総合学科第1期卒業生」を送り出した。平成27年3月の卒業生は「総合学科第12期生」となり、石狩高等学校創立からは今年度で38年目を迎える。

また、平成16年10月には、本校が当番校を務め「第9回全国高等学校総合学科教育研究大会」が開催され、さらに平成25年10月には、「第18回全国高等学校総合学科教育研究大会釧路大会」の事務局を担当した。現在、道内には16校の総合学科高校が設置されているが、その部会長校として総合学科高校の持つ魅力と可能性について、道内はもとより全国に発信しているところである。

#### (2) 学校教育目標及び校訓

- 学校教育目標 : 自主・自律の心を求め、未来に翔く力を
- 校 訓 : 自主創造 堅忍不拔 協調信頼

#### (3) 系列と特徴

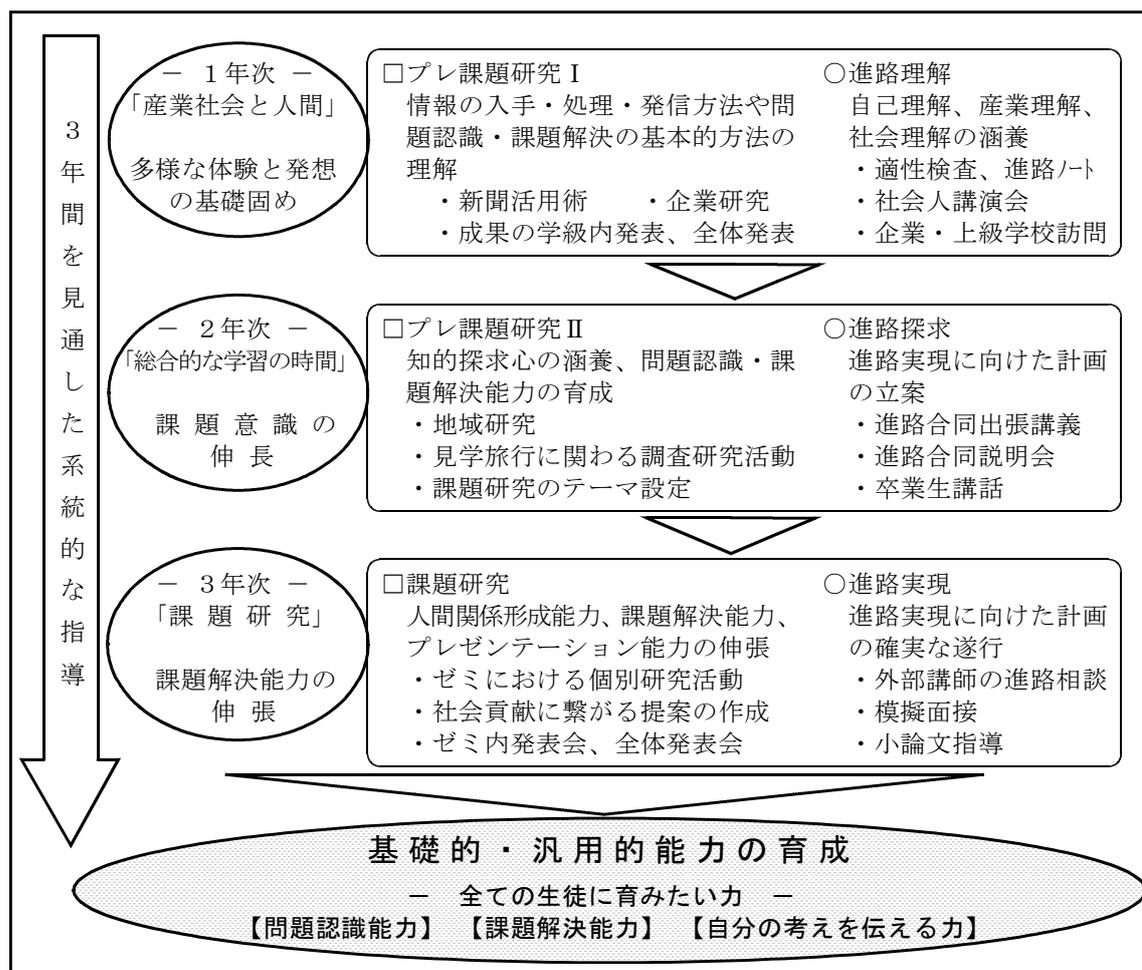
系 列 名	学 習 内 容 と 特 色
ナチュラル サイエンス (自然科学系)	1 主として数学や理科に関する科目が中心である。 2 自然現象や自然環境について理解を深め物事を数学的・科学的に考察し、処理する能力を育成する。 3 理科・工学系の大学や短大を目指す生徒に適している。
ヒューマン サイエンス (人文社会系)	1 国語、地理歴史や公民、英語に関する科目が中心である。 2 我が国や諸外国の歴史と生活、地域文化について理解を深めるための学習をする。 3 人文科学・社会科学系の大学や短大を目指す生徒に適している。
グローバル コミュニケーション (地域国際・教養科目系)	1 主として語学、国際理解に関する科目が中心である。 2 異文化に対する理解を深める。また、石狩市の姉妹都市との交流に積極的に参加させる。 3 語学系の大学や短大への進学、公務員への就職を目指す生徒に適している。
グローバル ビジネス (流通ビジネス系)	1 主としてコンピュータ、会計、商業に関する科目が中心である。 2 産業経済の発展と経済活動、流通の仕組み、流通を支える関連活動、ビジネスの創造に対応できる学習をする。 3 商業系の大学や短大、専門学校への進学、サービス・事務関係への就職を目指す生徒に適している。
グローバル インフォメーション (情報システム系)	1 主として情報、コンピュータに関する科目が中心である。 2 情報の意義や役割について理解を深め、高度情報化社会に対応できる創造的・実践的な学習をする。 3 情報系の大学や短大、専門学校への進学、情報関係への就職を目指す生徒に適している。

ライフ アート (生活文化系)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主として生活や文化、芸術に関する創造的分野の科目が中心である。</li> <li>2 マルチメディアの特性や活用方法について理解を深め、高度情報通信社会において効果的に活用するための実践的な学習と、作品制作や生活に関する創造的な学習をする。</li> <li>3 教育系・家政系・芸術系大学、専門学校への進学、音楽・美術・生活産業系への就職を目指す生徒に適している。</li> </ol>
ライフ サポート (健康福祉系)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主として福祉や健康に関する科目が中心である。</li> <li>2 生涯スポーツを通じて心身ともにたくましく生きる力や、豊かな人間性を育むための学習をする。</li> <li>3 福祉系・体育系の大学、短大、専門学校への進学、公務員、福祉サービスへの就職を目指す生徒に適している。</li> </ol>

## 2 本校のキャリア教育

本校では、1年次「産業社会と人間」(2単位)、2年次「総合的な学習の時間」(1単位)、3年次「課題研究」(2単位)において、自己の興味・関心に基づいて問題を認識して課題を設定し、研究した結果を提案するプロセスを通して、系統的にキャリア教育の目標実現を目指している。

### (1) 全体像



## (2) 「産業社会と人間」における取組

前期の科目選択指導、後期のプレ課題研究Ⅰを柱とし、適宜進路指導に係わる活動を盛り込む。プレ課題研究Ⅰでは、個人で調査研究・発表を行い、問題認識・課題解決能力の基礎を育成する。生徒個々の研究内容に重きを置く指導ではなく、あくまで学習過程の理解に重点を置く。よって1年次は「問題認識・調査・研究・発表のサイクルを全生徒が産社で一度経験する」ことを最低到達目標とする。

### 〔主な授業内容〕

- 産社オリエンテーション
- 進路ガイダンス
- 進路サポート
- 科目選択指導
  - 全体ガイダンス
  - 教科・進路別ガイダンス
  - 2・3年次授業見学
  - 科目選択練習→面談
  - 予備登録→面談→本登録
- 社会人講演会
- 夏季休業中課題グループ発表
- 図書・新聞活用術指導
  - ワークシート、グループ発表
- 合同進路説明会
- 企業・上級学校見学会
- 企業研究（プレ課題研究Ⅰ）
- 産社成果発表 他



【2・3年次授業見学(エアロビクス)】



【社会人講演会】

## (3) 地域性を素材とした取組

### ア 企業・上級学校見学会（1年次：産業社会と人間）

地域の企業と上級学校(大学・専門学校)に協力を依頼し、生徒の希望調査を元に8コースに分かれ、午前は企業、午後は上級学校を見学・体験することにより、進路意識や社会観・職業観を育成する。

さらに、進路選択のために自主的・積極的に進路学習(オープンキャンパス・学校見学会等)に取り組む姿勢を育むことを目指す。



【リサイクル工場での企業見学】

### イ 地域研究（2年次：総合的な学習の時間）

3年次での課題研究の実施に向け、問題認識→課題設定→研究→提案のサイクルを、地域研究を通して学ぶ。「石狩市まちづくり出前講座受講」→「レポート作成(課題・疑問点)」→「体験・見学学習」→「提案ワークショップ(出前講座担当者再来校、問題・課題に対する解決方法の提案)」→「グループ発表」の流れで、「提案」の方法論を学び、3年次の学習に繋げることを主眼とする。



【市立図書館での体験・見学学習】

## ウ 各系列の特色を生かした取組

### (7) ライフサポート系列における地域と連携した取組

- 福祉施設実習（介護老人保健施設ら・ぱーす、花川北老人デイサービスセンター、和みの家等）
- 地域の大学・専門学校からの出前授業（藤女子大、北星学園大、西野学園）
- その他（認知症サポーター養成講座・視覚障害者交流・個別レクリエーション等多数）



【養護学校とのビルクリーニング交流】

### (4) ライフアート系列における地域と連携した取組

- 時間講師・民間講師による少人数指導  
器楽ⅠⅡ、素描、コンピュータミュージック
- 地域の大学（東海大）からの出前授業  
インテリアデザイン、ランプシェードデザイン



【中国人講師による中国語の授業】

### (5) グローバルコミュニケーション系列、グローバルビジネス系列、グローバルインフォメーション系列における地域と連携した取組

- 時間講師・民間講師による少人数指導  
中国語、ロシア語、秘書実習、簿記、情報処理  
表現メディアと編集と表現、ビジネス情報管理

## (4) 成果と課題

### ア 成果

- (7) 社会への提案型の課題研究により、問題認識能力・課題解決能力が育成されるとともに、職業の存在意義や社会との繋がりについての理解など、職業観や社会観が深化し、進路意欲の向上及び自己肯定感の醸成に繋がった。
- (4) 3年間を見通し「産社」「総学」「課研」を有機的に結びつけた系統的な指導により、自主的・主体的な行動力や表現力、プレゼンテーション能力等が育ち、学校行事や生徒会行事等にも積極的に参加し工夫するようになった。
- (5) 地域の企業・自治体・上級学校等の教育資源を活用した出前講座や見学・体験学習など、地域に密着した専門的内容の受講や実践的な体験が、自分の住む街に興味・関心や誇りを持つことに繋がり、主体的に学習する姿勢や態度が育成された。

### イ 課題

- (7) 多様な領域に関する1人1テーマの指導について、指導する教員側の研修・研究と系統的指導方法の確立が必要である。
- (4) 学校図書館との連携・協力をさらに充実させ、情報の収集・整理・発表方法等についての取組を工夫・改善していくことが必要である。
- (5) 大規模総合学科校ならではの時間割編成の複雑さにより、年次団全体での指導体制が組みにくい現状がある。教育課程の新たな工夫、及び個別（1人1テーマ）での課題研究体制の工夫・改善、さらには取材的・体験的要素（自ら取材して情報を得たり、体験して検証する）の導入などについても検討していく必要がある。